

ESD レポート

Education for Sustainable Development

vol. 16

2008 秋

2008 年 10 月 31 日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

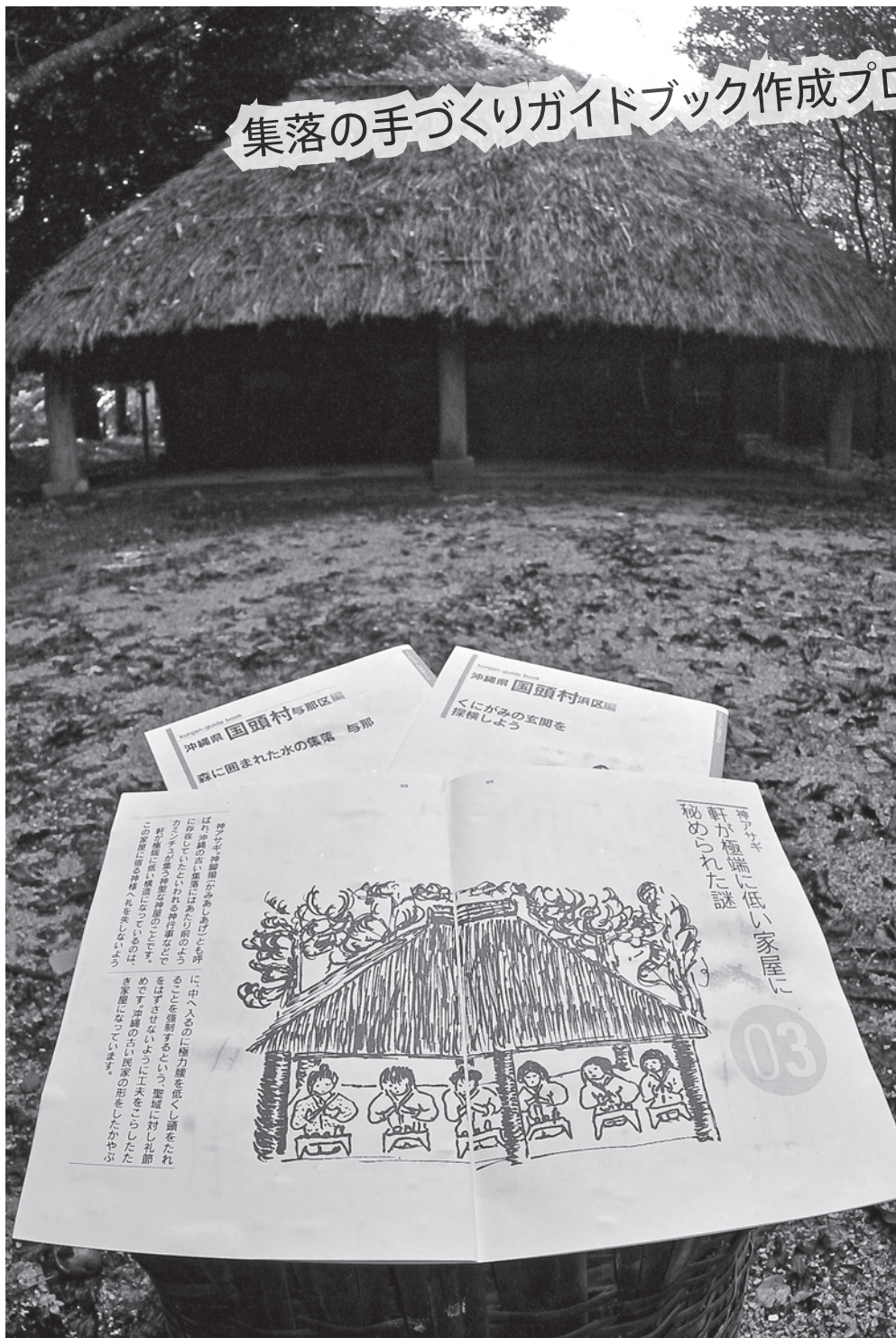
ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」——それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。

シリーズ **学びの場をデザインする**

わったーシマの記憶をカタチに

くにがみ
NPO 法人国頭ツーリズム協会

集落の手づくりガイドブック作成プロジェクト



沖縄本島最北端にある人口 5600 人の国頭村（くにがみそん）では、2000 年から年 20 回にわたる地域人材育成講座が毎年開講されています。次の世代へ何を引き継いでいけるのか？ その大切さに気がついた住民たちによる地域に学び、地域を元気にする担い手づくりの空間です。地域資源（自然・文化・歴史など）を理解し、持続的な利活用を身につけるこの講座、2007 年度は、集落の生活史を地域住民が自らの手でまとめるガイドブック（小冊子）づくりを行いました。都市部の大学生が村民の意識変化をドキュメンタリー番組として記録するというプロジェクトも重なり、世代や地域を超えた相乗的な学びの場がつくられました。

比地集落にある神アサギ（集落の神事を行う際の拝所となるだいな場所）とその神アサギを紹介している手づくりガイドブック

※ わったーシマ：「私の集落」という意味

キーワード

村の記憶をカタチに
地域づくりと ESD
地域に学ぶ
手づくりガイドブック

関係者

村民、村役場の職員、
NPO、県外講師、
都市部の大学生





集落の生活史を自分の手でまとめあげる

これまでの講座を通じて、村の若者やおじい、おばあたちとともに地域の資源を調べ、マップ化し、共有する作業を積み重ねてきました。しかし、その後それらの成果を有効に活用できていないという課題がありました。一方、集落調査として村にやってくる研究者たちの報告書は、そこ住む人々の視点が盛りこまれず、住民が手に取る機会すらないのが実情です。

そこで住民が協働で、自らが記憶にとどめている原風景や物語、人の営みなどのドラマを自分たちの生活史として発掘し、自らの手でまとめあげ、集落の共同店や村の観光施設などで販売できる「ガイドブック」というカタチに仕上げることがゴールにしようとなったのです。対象は村の20集落のうち、の浜と比地、そして与那の3集落です。

成果物の活用イメージを具体的に

ガイドブックは、ただ単に集落を紹介するものではありません。集落内のスポットを選びそれらを集落散策ツアーの行程としてまとめあげることにこだわりました。集

落のスポットを選ぶ作業は、歩けば歩くほど自らの地域の文化の豊かさを実感し、今まで気にとめなかった地域の資源を再発見する道のりでもありました。いざとなると知らないことばかりで、それまでの地域資源の掘り起こしも、浅く、甘かったことも反省させられました。ガイドブックの完成まで延べ20回以上のフィールドワークやワークショップを重ね、集落の先輩方を訪れて聞き書きし、書物でさらに確認する時間のかかる作業でした。

世代を超えた学び合い

このガイドブック作成作業の一部始終を、琉球大学でマスコミ学を専攻する学生たちがカメラやマイクを持って追いかけて、15分番組に仕上げたことも、相乗的な学びの広がりにつながりました。沖縄の都市部に住む学生たちは、はじめは手探りの状態でしたが、講座で学ぶ村民たちの姿にふれ、言葉を交わしていく中で、直面している問題に向き合い、持続可能な地域づくりに取り組む農村を身近に考えるようになったといいます。番組は「学びの実践～国頭村のチャレンジ～」と名づけられ、講座終了時にみんなで鑑賞し、双方が勇気づけられました。

カタチにするまで諦めない

すべて手づくりのガイドブックの制作は簡単ではありません。農作業や家事を終えた後や週末に、集落の公民館や村の集会施設にみんなが揃うのは容易でないからです。各集落に住む役場職員をリーダーとして位置づけ、講座のファシリテーターが何度もそのリーダーを元気づけ、なんとか完成にたどり着きました。

ガイドブックが完成したら、集落の案内役を村民たちが担っていかなくてはなりません。それは、ツアー参加者とともに歩き、会話を重ねることで、そのスポットと「自分とのかかわり」をあらためて位置づけなおす作業そのものです。ある集落では、今年度からモニターツアーを開始し、自分たちの生活史を参加者と共に学ぶツアーが始まっています。ガイドブックというカタチになったことで、次なる思いが湧き上がり、その積み重ねを楽しみ、地域が元気になるしくみを自らで育みはじめています。

(報告：大島順子)

NPO 法人国頭ツーリズム協会

〒905-1411 沖縄県国頭郡国頭村辺土名 245
電話：0980-50-1130
URL：<http://kuta-okinawa.org/>
E-mail：k.tourism@deluxe.ocn.ne.jp

活動をふりかえって

このガイドブックづくりがスタートしてから、とても忙しくなりました。集落の人たち（おじいやおばあ）が、集落で気づいたこと、気になったことなど、何でも気軽に話しかけてくるようになったから。近い将来、ガイドブックで取り上げた1班から5班までの川の水を飲める状態に取り戻し、ガイドブック片手の集落散策ツアーでコーヒーを入れて飲めるまでにしたいと思っています。(国頭村与那区長 津波敏久さん)



はじめは自然の中でツアーを体験するのがエコツーリズムかな、といった程度の理解だったのですが、国頭と係わることで本当はもっと地域の役割が大きいということがよくわかりました。自分たちの地域を知ることが地域活性化の出发点なんだということを学んだと思います。そして、地域を学ぶということを通じて、世代を超えて話し合う場ができ、交流の活性化も引き起こされていることを体感しました。



(琉球大学マスコミ学専攻学生 新垣瞳さん)

ESDを広げ、すすめるために

このコーナーでは、ESD-Jが進める主要プロジェクトやその成果を紹介し、ESD-Jが何を目指し、何に取り組んでいるのかを紹介していきます。2回目は政策提言PTの「ESD推進のための政策提言の取りまとめ」事業と情報共有PTの「ウェブサイトのリニューアル」事業をご紹介します。

政策提言

ESD推進のための政策提言の取りまとめ事業

ESD-Jは何を実現するために存在し、何を獲得するための運動を展開するのか？過去5年間の成果をレビューし、ESDの10年の最終年に向けた達成目標とその実現のための政策手段について、具体化することに取り組みます。ここで取りまとめた政策は、円卓会議や議員連盟、ボン会合等でアピールし、その実現に向け働きかけていきます。

成果物のイメージ

1. ESD-Jがめざす、2014年までに達成すべき具体的な「ESDの10年」の目標
2. 目標の達成度を測る指標及び2014年までの行程表（ロードマップ）
3. その目標達成に向けて必要な政策に関する提言
 - ・ ESD-Jが自ら実施する活動に関する戦略
 - ・ 地域での活動
 - ・ 国レベルでの活動（関係省庁、経団連等）
 - ・ 国際レベルでの活動（ユネスコ、国連大学、ESDを推進する市民セクターグループなど）

全体として5～10ページ以内のコンパクトな戦略目標・提言となることをめざしています。

8月に理事による政策提言案を提示した上で、ESD-J会員からも広く意見、アイデアを募りました。現在は全国で開催している地域ワークショップを通じて、集まったアイデアをブラッシュアップしています。それらの議論も踏まえながら、年内には提言として取りまとめしていく予定です。現在出ている提言案やプロジェクトの経過はウェブサイト「ESD-Jの活動」にて公開しています。



政策提言案を議論する地域ワークショップ in 関東のようす

情報共有

ESD-Jのウェブサイトをリニューアル

今年の8月にESD-Jのウェブサイトがリニューアルしました。必要な情報に利用者がアクセスしやすく、そしてより広範なESDに関する情報提供を通じて、ESDに関する総合的なポータルサイトを目指しました。メニューの構成も大幅に見直し、利用者向けに新たな機能も追加しました。主な新機能、新コンテンツは以下のとおりです。

★ ESDカレンダー

ESDに関するさまざまなイベントや事業を紹介します。ESD-Jの会員はイベントの登録も可能です。

★ 会員専用資料集

ESD-J会員専用の資料集コーナーを準備しました。事務局が保有していたドキュメントについて、会員の利用のニーズを勘案しながら、順次公開していきます。

★ ESD-Jの活動プロセス

これまで、ESD-Jの活動はトピックスとして断片的に紹介してきましたが、リニューアルに伴いプロジェクト単位で、継続的に情報公開し、ESD-Jがどこを目指し、何に取り組んでいるかを積極的に公開していきます。

★ ESD-Jへの依頼

ESD-Jへの講師派遣依頼や名義申請など、より効率的にコミュニケーションを図るために、手続きの流れや登録フォームなどを完備しました。

それ以外に、ESDに関する基本情報やESD-Jの組織案内などもかなり充実させています。また、今年スタートしたESD地域ブログやESD-Jの日々を伝える事務局ブログも配信していますので、ぜひアクセスしてみてください。



www.esd-j.org



円卓会議で ESD 世界会議に向けた議論がスタート!

ESD-J だより

9月29日(月)、3回目の「ESDの10年円卓会議」が開催され、政府や高等教育機関における取組の報告と、ドイツにおけるESD世界会議(ボン会議)についての議論が行なわれました。

ESD-JはESD推進議員連盟の力も借りながら、「ESDの10年」の中間年に向け、

- ボン会議に向けて中間年評価の準備、官民協働の「ジャパンレポート」作成
- 日本政府のESDへの取組を国内外へ発信する「ESDポータルサイト」を内閣官房に設置などを提案していましたが、今回の円卓会議でようやくそれらが動き始めたことが確認できました。「ジャパンレポート」および「ESDポータルサイト」の作成は、予算化されてはいないものの、内閣官房のもとで各省および円卓会議が協力し、手づくりで進めていくことになりました。

ボン会議において、日本はESDに関してどのような発信ができるか? という議論が行なわれました。委員のさまざまな意見を受け、最後に小澤紀美子座長が、「日本のESDの特徴として“連携”をキーワードにアピールしてはどうか」と提案されました。もちろん現在の日本のESD推進において、“連携”が完璧に機能しているわけではありませんが、多様な主体の連携によるESDの実現を目指して連絡会議や円卓会議をつくり、民間ではESD-Jがネットワークをつくり、学校や地域の実践では行政や企業、NPOなど多様な主体との連携が重要視されているという現状からもみても、的を射た提案と言えます。今後はその“連携”がより進むような政策を、ESD施策として打ち出していただければ幸いです。

今年度の円卓会議はあと2回程度、ボン会議に向けて開催される予定です。また、円卓会議の開催報告は、内閣官房ウェブサイト(ESD-Jのリンク集よりリンク可)にて公開される予定です。

◆ ESD 世界会議の開催概要 ◆

開催日程: 2009年3月31日~4月2日

開催都市: ボン(ドイツ)

主催: ユネスコ、ドイツ教育省、ドイツユネスコ国内委員会

参加者: ユネスコ加盟の政府代表者、会議が招聘する専門家と市民団体代表、一般公募あわせて700名

2008年8月から9月の活動報告

- 8月1日 安城市 ESD 職員研修〈教育〉
- 8月4日 プロジェクトリーダー会議
- 8月7日 千葉県エコマインド養成講座 講師派遣
- 8月13日 ESD-Jウェブサイト・リニューアル
- 8月13日 ESD 推進のための政策提言案 募集
- 8月20日 ESD レポート(15号) 発行
- 8月28日 情報 PT ミーティング
- 8月29日 第1回 ESD カフェ
~暮らし・技・心に学ぶ ESD~
- 9月1日 文部科学大臣表敬訪問
- 9月4日 東北大学 eラーニング ESD 講座 撮影
- 9月9日 安城市 ESD 職員研修〈食と農〉
- 9月12日 自民党総裁選挙候補者へ公開質問状
- 9月12日 ESD 推進のための政策提言案 バージョン2公表
- 9月17日 地域ワークショップ in 九州
- 9月18日 地域ワークショップ in 名古屋
- 9月19日 実践ハンドブック編集会議
- 9月19日 第2回 ESD カフェ
~ドイツの ESD~
- 9月23日 地域ワークショップ in 北海道
- 9月26日 CSR 研究会にて ESD 講義・ワークショップ開催
- 9月28日 JICA 地域別研修「持続的な開発のための環境教育トレーニング」講師派遣
- 9月29日 環境省 ESD ヒント集編集会議
- 9月29日 ESD 円卓会議出席
- 9月30日 安城市 ESD 職員研修〈グローバル経済と地域〉

私たちが ESD-J に入ったわけ

熱い気持ちで未来をつくる — 未来をつくる共育活動

NPO 法人 コモンビート

NPO 法人コモンビートは、「熱い気持ちで未来をつくる 感じるチカラが日本を育てる」をスローガンに、ミュージカル創作を通じて情熱や感受性を育てる「100人100日共育プログラム」を実施しています。



毎年、300人の若者が東京・大阪・名古屋で公演を実施し、13000人もの観客を集めています

私たちは問題解決のための取り組みを直接実施するのではなく、課題を解決していけるような人材を育てることを目的としています。問題に気づく感受性(インプット)、それを自らが咀嚼・判断し(オンプット)、行動に起こせる情熱(アウトプット)を、教え学ぶ関係ではなく、互いがぶつかり合いながら体感していきます。

「未来をつくる教育」という共通のミッションで ESD-J の皆様と協働し、私たちが担うべき役割を發揮できる機会を作っていけたらと思っています。

子どもがあこがれるような魅力あるステキな大人を増やすこと。学びは真似るが語源です。これこそが「楽しい未来を描くことができる教育」ではないかと考えています。NPO 法人コモンビート (www.commonbeat.org)



団体会員 正会員として1団体が新たにメンバーに加わりました。

● NPO 法人 コモンビート (www.commonbeat.org)

個人会員 正会員6名、準会員3名、合計9名の方が新たにメンバーに加わりました(関東地区5名、中部地区1名、関西地区3名)



紅葉の便りが届く季節になりました。秋の日はつるべ落とし。木々の葉も少しずつ散って寂しくなりますが、植物はもうこの時期に来年の芽をつくっているといます。寒くなる時にはしっかり寒くなって、新しい年を迎えるのが一番なのでしょう。この夏より情報共有PTの末席を汚しています。日常の仕事とは異なる分野でのさまざまな活動を知ることが多く、この仕事を通じて少しでも視野を広げる機会にしていきたいと思っています。(荘司博史)

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

http://www.esd-j.org/ e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中: 正会員(10,000円)、準会員(3,000円) 詳しくはHPをご覧ください ●



発行: NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集: ESD-J 情報共有プロジェクトチーム レイアウト: 河村 久美